

Oracle BI Publisher 11g Release 11.1.1.5が新登場

すぐれた新機能のご紹介

エンドユーザーのための機能

iPadおよびiPhone用のネイティブ・アプリとWebアプリ

iPhoneやiPadといったモバイル機器で実行されるビジネス・タスクは増える一方です。そのような状況で、Oracle Business Intelligence Publisher (Oracle BI Publisher) を搭載したモバイル機器でレポート参照やデータ処理を行わない手はありません。Oracle BI Publisherのレポートは、iPhoneまたはiPadのSafariやその他のブラウザからそのままアクセスできます。また、iPhone/iPadに対応したOracle BI Mobileアプリをインストールすれば、デスクトップやラップトップで操作するのと同じように、機能が豊富で高速なインタラクティブ・レポートを使用できます。



Excel 2007のアウトプット

Excel 2007形式でレポートをダウンロードし、WindowsとMacで最新のExcelを使用して開くことができます。しかも、元の書式設定とレイアウトは忠実に再現されます。繰り返しグループを使用すれば、レポートのデータを自動的に別々のワークシートに分類できます。この書式オプションを使用してExcelファイルをダウンロードすると、他のタイプで出力したExcelファイルより70%小さくなるため、Excelのレポートを社内で共有しやすくなります。

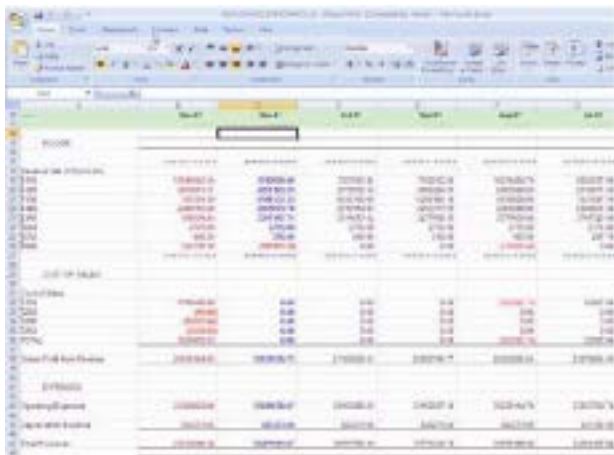
A screenshot of an Excel spreadsheet showing a detailed data table. The table has multiple columns and rows of data, with some cells highlighted in red and blue. The spreadsheet is displayed in a window with a standard Windows interface.

インタラクティブ・レポートの高速化

Oracle BI Publisherを使用すればデータを迅速に処理できます。インタラクティブ・レポートのアウトプット生成に使用されるメモリが減り、スピードががっかりしないほど高速になりました。Oracle BI Publisherは高度に最適化された三層キャッシュ・メカニズムを採用しているため、応答性に優れたインタラクティブ・レポートを使用できます。



レポート作成者のための機能



Excelテンプレート

Excelを好んで使用されるユーザーもいるため、レポート・レイアウトの設計オプションにExcelを追加しました。Oracle BI Publisherのテンプレート、RTF、PDF、Flashなどの既存のテンプレート・オプションに加え、本リリースからは用途に合わせたレポートをExcelで設計することができます。これにより、カスタム関数やExcelマクロを使用して、複数のシートをまたいでデータを分割し、動的に値を計算し、社内でも共有することが可能です。

ローカルのExcelデータソース

あるデータを補完するためにExcelデータが必要になる場合や、Excelのデータをすばやく表示することが必要になる場合がよくあります。Oracle BI Publisher 11.1.1.3ではデータソースにExcelファイルが追加され、サーバー上にあるExcelデータを使用してレポートを作成できるようになりました。Oracle BI Publisher 11.1.1.5はさらに一歩前進し、ローカル・マシンからデータ・モデルに直接Excelスプレッドシートをアップロードできるようになりました。アップロード済みのExcelスプレッドシートからレポートを作成したり、スプレッドシートと他のデータソースを組み合わせることで集計したりすることができます。ローカルにあるExcelファイルを使用してレポートを作成できる機能は、ユーザーによるデータの視覚化や共有を容易にする優れた方法でありながら、一元化されたレポート環境も維持します。[動画をご覧ください。](#)



Oracle E-Business Suiteサポートの強化

Oracle BI Publisherは、Oracle E-Business Suiteで採用されているユーザー職責に基づくデータ・レベル・セキュリティをサポートようになったため、職責をその場で切り替えられるようになりました。Oracle BI Publisher 11.1.1.5は、Oracle E-Business Suiteのデータの表示、管理、レポートの配布、および他のデータソースに含まれるデータとの結合と集計に使用できます。Oracle ReportsからOracle BI Publisher 11gへの変換およびアップグレードを支援するユーティリティもあります。Oracle BI Publisher 11gに追加された多くの優れた新機能を、今すぐOracle E-Business Suiteで活用してください。

リスト・コンポーネント

インタラクティブ・レポートのデータはリスト・コンポーネントを使用すれば簡単にフィルタ処理できます。リスト内の値をクリックすると、レポートに含まれるデータが自動的にフィルタ処理されます。レイアウト・エディタでは、リストの向き（水平方向または垂直方向）や30を超えるその他のオプションを設定して、ユーザーのニーズに応じて視覚的な効果を出すことができます。リストを使用した場合も、レポート操作によりさらに多くの情報を得ることができます。[動画をご覧ください。](#)



管理者のための機能

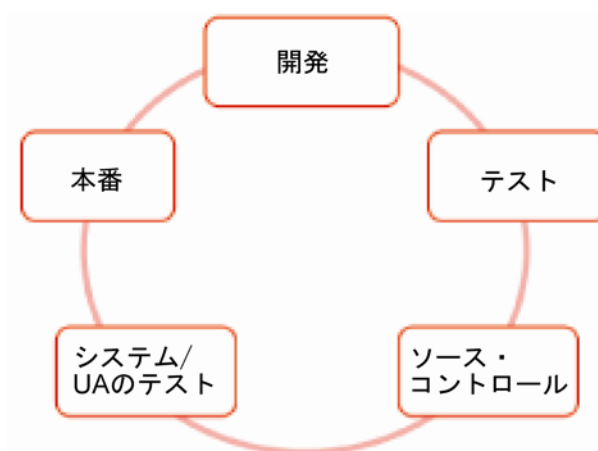


監査と監視の強化

監査はコンプライアンスだけを目的にしているものではありません。ユーザーがよく実行する操作や、レポートにアクセスしたり表示したりするタイミングと方法を把握して、顧客サービスを向上させる手段でもあります。Oracle BI Publisher 11.1.1.3では、IT管理者による監査に必要なデータ収集を支援するフレームワークが組み込まれました。Oracle BI Publisher 11.1.1.5では取得される監査情報およびパフォーマンス情報が増加し、データベースにそのデータを格納するための方法が導入されています。本リリースでは、監査情報とパフォーマンス情報の視覚化、分析、レポート作成にOracle BI Publisherを使用できます。[動画をご覧ください。](#)

レポート開発のライフ・サイクル管理

通常レポートは、複数の開発フェーズやプロセスを経てから本番利用されるようになります。開発が終了するとレポートはテスト環境に移動され、テストした後に本番環境に移動されます。新しいOracle BI Publisherのカatalog・ユーティリティを使用すれば、レポートを1つずつまたはまとめて、ある環境から別の環境に移動させることができ、どの処理にもサーバーの停止を伴わないため、ユーザーは自分が必要とするミッション・クリティカルなドキュメントやレポートを生成し続けることができます。



Oracle BI Publisherのより詳しい情報は



@bipublisherをフォローして、最新ニュースや特ダネ情報を収集してください。フィードバックもお待ちしています。



Oracle BI Publisherのエキスパートが見つかります。



手順やソリューションに関する記事が500件以上あります。



オラクルのチャンネルを登録して、概要や手順に関する動画をご覧ください。



ご質問はディスカッション・フォーラムに投稿してください。